



本との出会いで広がる世界～夏休みに読書のすすめ

副校長 谷田部 康代

笠間小学校の図書室には9千冊以上の本があり、学校司書の榎本先生や図書委員会、ボランティアのみなさんが環境の整備をしてくださっています。また、読み聞かせボランティアのみなさんによる低学年の読み聞かせも各教室で行われています。

6月末に真夏のような日差しが毎日照り付けたときがありました。校庭に設置した熱中症指数計が高くなりすぎたため、中休みに外で遊べない日が続きました。そんな時は、図書室が大繁盛していました。畳が敷いてあるスペースでは、低学年の児童がくつろぎながら絵本を楽しそうに読んでいる姿が印象に残っています。

現行の学習指導要領では、自ら進んで読書をし、読書を通して人生を豊かにしようとする態度を養うために国語科学習が読書に結び付くようにすることが求められ、読書に関する指導事項を次のように示しています。

- ・読書に親しみ、いろいろな本があることを知ること。(第1学年及び第2学年)
- ・幅広く読書に親しみ、読書が必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。(第3学年及び第4学年)
- ・日常的に読書に親しみ、読書が自分の考えを広げることに役立つことに気付くこと。(第5学年及び第6学年)

具体例として、2年生では、教科書教材「スイミー」をきっかけに、同じ作者の本や同じ主人公のシリーズを読んだり、3年生の「すがたをかえる大豆」では、食べ物について書かれた科学読み物を使って調べまとめたりします。

さて、私の夏休みの思い出として記憶に残っているのは、6年生の夏休み最初に母と本屋へ行きある一冊の本に出合ったことです。『霧のむこうのふしぎな町』というタイトルに魅かれて手にとった本は私の想像力を刺激し、知らない世界へ連れていってくれました。今から15年位前に6年生を担当した際、同じ本を読んでいた児童がいて嬉しくなりました。そしてまた読んでみましたが、新鮮な気持ちで読むことができました。

最近では、笠間小学校の図書室で借りた『サステナブル・ビーチ』がおすすめです。コロナ禍がなかなか収まらず、以前のようにハワイに行けませんが、気分はすっかりハワイの風を感じることができ、SDGsにも深い関心がもてます。ぜひ、時間のある夏休みを使い読書に興味関心をもつきっかけをつかみ、心の中で本の世界を広げていってほしいと思います。

まちの図書館や本屋などで、お気に入りの本を親子で見つけてみませんか。